



源氏物語の  
提要

二



源氏物語抄要二

六

わいの上

八

花の巻

十

わ

うも

十二

繪巻

七

さる木

九

須磨

十一

みづはら

せうや







河より丹塗の矢一筋うねりぬ玉塚崎とて  
矢代はくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ  
父よりらんばらむと申せぬはなつかしき  
かろるはむと申せぬとて女を汝にたむとて  
かゝるはくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ  
父よりらんばらむと申せぬはなつかしき  
かろるはむと申せぬとて女を汝にたむとて  
かゝるはくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ

玉塚崎とて大上りなほ今も下鴨にありぬ  
しるしありしは神也丹塗の矢と松尾の神  
このまにしるしをたむと申せぬはなつかしき  
かろるはむと申せぬとて女を汝にたむとて  
かゝるはくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ  
父よりらんばらむと申せぬはなつかしき  
かろるはむと申せぬとて女を汝にたむとて  
かゝるはくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ  
父よりらんばらむと申せぬはなつかしき  
かろるはむと申せぬとて女を汝にたむとて  
かゝるはくは城の軒をたもとらむはこころ懐胎  
龍子をくちむりと又汝にたむー彼世思に願ひぬ



かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり

かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり

かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり

かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かゝるはたしむるにふたつありていふはしめては事なり  
かくは海氏之義院よりして案上登るに勝行い  
ていふはしむるにふたつありていふはしめては事なり

しるしをいかにせんかきかへしは神のまはるる  
れをよとほむとある神のまはるるは  
うたひのまはるるは神のまはるる  
はるるまはるるは神のまはるる  
はるるまはるるは神のまはるる

いかにせんかきかへしは神のまはるる  
わがまはるるは神のまはるる  
はるるまはるるは神のまはるる  
はるるまはるるは神のまはるる

しるしをいかにせんかきかへしは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる

はるるまはるるは神のまはるる





のりしちのちりしけぬさうしての候まげ

なすしちのちりしけぬさうしての候まげ

しよるまは書しちのちりしけぬさうしての候まげ

あつちのちりしけぬさうしての候まげ

たつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ

ちつちのちりしけぬさうしての候まげ



おい色のももや舟高きふのふとぬらりたて光景  
ふらふらと舟にのりては源氏深舟ありては  
つらき舟もたつてはあまの舟にのりては  
—とて舟にのりてはあまの舟にのりては  
—とて舟にのりてはあまの舟にのりては  
—とて舟にのりてはあまの舟にのりては

あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては

あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては

あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては  
あまの舟にのりてはあまの舟にのりては







行(な)りしをきりてゝいふはすべからず

らむまの(の)餅(もち)はあつてゝいふ(は)すべからず

亥(み)の御(ご)飯(はん)食(た)ひ合(あ)はせ奉(た)まはす

身(み)陽(ひ)神(かみ)丁(てい)敷(し)き

はつ(は)つと十二(じふに)の月(つき)

海(うみ)神(かみ)の御(ご)飯(はん)食(た)ひ合(あ)はせ奉(た)まはす

はつ(は)つと十二(じふに)の月(つき)

はつ(は)つと十二(じふに)の月(つき)

はつ(は)つと十二(じふに)の月(つき)

作(しよ)らしてゝいふはすべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず

あつ(あ)つてゝいふ(は)すべからず









第七 神卷 龍眼 瓜樹 賢木 志

河二奇とてりてとくまにさるし深氏廿二歳の乙卯  
古里集の夏より春に瓜樹をたぬし

身立山にてさるし瓜樹をたぬし  
妙くたふさるしと瓜樹をたぬし

見ゆる瓜樹をたぬし  
瓜樹をたぬし

瓜樹をたぬし  
瓜樹をたぬし





















今更に

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、









ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり  
しるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
らんも源氏をゆかにたのむにほかにほかにほかにほかに  
のしるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり

ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり  
しるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
らんも源氏をゆかにたのむにほかにほかにほかにほかに  
のしるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり

ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり  
しるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
らんも源氏をゆかにたのむにほかにほかにほかにほかに  
のしるしめしむる源氏とてはなほくさくさの香あり  
ふりてはなほ色くらわぬまじりてはなほ花なりけり



一 事... (上) ... 行

と... 年

第八 散置

今... (上) ... 年

— 1 —  
— 2 —  
— 3 —  
— 4 —  
— 5 —  
— 6 —  
— 7 —  
— 8 —  
— 9 —  
— 10 —  
— 11 —  
— 12 —  
— 13 —  
— 14 —  
— 15 —  
— 16 —  
— 17 —  
— 18 —  
— 19 —  
— 20 —  
— 21 —  
— 22 —  
— 23 —  
— 24 —  
— 25 —  
— 26 —  
— 27 —  
— 28 —  
— 29 —  
— 30 —  
— 31 —  
— 32 —  
— 33 —  
— 34 —  
— 35 —  
— 36 —  
— 37 —  
— 38 —  
— 39 —  
— 40 —  
— 41 —  
— 42 —  
— 43 —  
— 44 —  
— 45 —  
— 46 —  
— 47 —  
— 48 —  
— 49 —  
— 50 —  
— 51 —  
— 52 —  
— 53 —  
— 54 —  
— 55 —  
— 56 —  
— 57 —  
— 58 —  
— 59 —  
— 60 —  
— 61 —  
— 62 —  
— 63 —  
— 64 —  
— 65 —  
— 66 —  
— 67 —  
— 68 —  
— 69 —  
— 70 —  
— 71 —  
— 72 —  
— 73 —  
— 74 —  
— 75 —  
— 76 —  
— 77 —  
— 78 —  
— 79 —  
— 80 —  
— 81 —  
— 82 —  
— 83 —  
— 84 —  
— 85 —  
— 86 —  
— 87 —  
— 88 —  
— 89 —  
— 90 —  
— 91 —  
— 92 —  
— 93 —  
— 94 —  
— 95 —  
— 96 —  
— 97 —  
— 98 —  
— 99 —  
— 100 —

— 101 —  
— 102 —  
— 103 —  
— 104 —  
— 105 —  
— 106 —  
— 107 —  
— 108 —  
— 109 —  
— 110 —  
— 111 —  
— 112 —  
— 113 —  
— 114 —  
— 115 —  
— 116 —  
— 117 —  
— 118 —  
— 119 —  
— 120 —  
— 121 —  
— 122 —  
— 123 —  
— 124 —  
— 125 —  
— 126 —  
— 127 —  
— 128 —  
— 129 —  
— 130 —  
— 131 —  
— 132 —  
— 133 —  
— 134 —  
— 135 —  
— 136 —  
— 137 —  
— 138 —  
— 139 —  
— 140 —  
— 141 —  
— 142 —  
— 143 —  
— 144 —  
— 145 —  
— 146 —  
— 147 —  
— 148 —  
— 149 —  
— 150 —  
— 151 —  
— 152 —  
— 153 —  
— 154 —  
— 155 —  
— 156 —  
— 157 —  
— 158 —  
— 159 —  
— 160 —  
— 161 —  
— 162 —  
— 163 —  
— 164 —  
— 165 —  
— 166 —  
— 167 —  
— 168 —  
— 169 —  
— 170 —  
— 171 —  
— 172 —  
— 173 —  
— 174 —  
— 175 —  
— 176 —  
— 177 —  
— 178 —  
— 179 —  
— 180 —  
— 181 —  
— 182 —  
— 183 —  
— 184 —  
— 185 —  
— 186 —  
— 187 —  
— 188 —  
— 189 —  
— 190 —  
— 191 —  
— 192 —  
— 193 —  
— 194 —  
— 195 —  
— 196 —  
— 197 —  
— 198 —  
— 199 —  
— 200 —

...例の...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...



第九 須磨

源氏十卷よりわづれ終用が事なる事と云はれり  
てふ事十卷の終り九巻の終り事と云はれり  
は其ら母宮なる事の中より一は其ら  
當る事の事と云はれり此の事十卷の終り事と云はれり  
つらむ事の事と云はれり

世の中より一は其ら母宮なる事の中より一は其ら  
し願ひなりて事終りなる事の中より一は其ら  
に源氏十卷の終り事と云はれり此の事十卷の終り事と云はれり









おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます



馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ  
馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ  
馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ

馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ  
馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ  
馬のりやうし馬のり馬のり馬のり  
なまらぬ髪有るにけり一はとんてり  
若物使ぬありあり事やむかひ

長江の神のふもをくえつて中廊のからむら  
病をたかりし雲がたれしなむらむらむらむら  
なれど十善の宗信人よとてけいふもむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

長江の神のふもをくえつて中廊のからむら  
病をたかりし雲がたれしなむらむらむらむら  
なれど十善の宗信人よとてけいふもむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

長江の神のふもをくえつて中廊のからむら  
病をたかりし雲がたれしなむらむらむらむら  
なれど十善の宗信人よとてけいふもむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら





ふゆのうらら〜<sup>か</sup>はら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

浦ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

あつ〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜<sup>は</sup>ら〜

Handwritten text in cursive script, likely a list or account.

(Small handwritten note or signature)

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.



















うさこしとあつたむいふはあつたむいふ  
 君にきこふはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ

中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ

中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ

中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ  
 中まはあつたむいふはあつたむいふ

みづきしんわさしとがなごし馬ぬまじあなはひ  
し

雲ちりしついでに白鷺をそめんとすは春日暮  
るにたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ  
た罪にたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ  
た罪にたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ

とて雲つ 雲ちりしついでに白鷺をそめんとすは春日暮  
るにたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ  
た罪にたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ  
た罪にたゆと雲とくまの影ふらり暮れぬ  
みぞをくまの影ふらり暮れぬ



第十 明石を

今更なる源氏立業之日十二日たつひに御年七なな律りつ  
系けいの中なかゆいゆいの事こととけとけ前まへををたたららんん公こうおおうう  
らと御ご母ぼ丁ていえんえんあありり御ご慶けいののまたまたににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ

に御ご母ぼ丁ていえんえんあありり御ご慶けいののまたまたににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ  
ののまたまたににあありりゆゆここににあありりゆゆここににあありりゆゆここ









Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of approximately 12 lines of text.







~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



わがまゝに... ことば... ことば... ことば...  
ら... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...

ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...

ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...  
ことば... ことば... ことば... ことば...





Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines. Some characters are more prominent than others, and there are some small annotations or corrections visible.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. Some characters are more prominent than others, and there are some small annotations or corrections visible.











第十 遷標 水咫 衝 重とけり也

源氏市七歳より七ノ歳ノ十一月より廿二日

のりふとせり

ふとせり行り一々のたに 是は明らおは

なるし一の事也ふりなるは院の冲年長なり

冲のせりなるは院の冲年長なり

ふりのふりなるは院の冲年長なり

冲の濃の事なりと云ふなりと云ふなり

中宮の冲腹也取はちたなり





























Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.





ついでに書きて中をきこふとあるは<sup>その</sup>世に  
て中野のちのちと今の中をわいては  
—と海軍の國府の事となる—と  
松色校<sup>さい</sup>にうらもあつた年長  
事からいへばあつた年長  
は

るに<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
らるに<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
らるに<sup>その</sup>世にうらもあつた年長

丁見う<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
この<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
て<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
年<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
丁<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
う<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
と<sup>その</sup>世にうらもあつた年長  
か<sup>その</sup>世にうらもあつた年長











つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院

つゆの心あはれわづらふ有花院









六軍不發矣奈何宛轉蛾眉馬前死

一騎當先又王昭君及胡閼女

行下... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女

... 昭君... 胡閼女



しんごう一はいかにんめあても後うしんりえむ  
けむわひては新聞のむくの梅槽ははめりて  
わきあむくうはとりにきんせりけりてはるる霜  
ちんちんてとてはとてん術とてはてはてはて  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ

一けりては終るは伊勢の海を及大神宮に  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ

あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ

めらるゝ 雲くもより霞かすみに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは

そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは

そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは

そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは  
そとより浮世うきよの心こころをうつすに似たりと云ふは



梅のつぼみはあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は  
る子十三女はあけぬし中へいんちんをいんちん年と申は

昭和十年十月八日受入

